

そのころの学校では、珠算は、あまり大切に考えられていませんでした。たとえ、珠算にかんしん関心をもっている先生がいても、その先生自身、今までの割り算九九でそろばんを覚え、そのやり方が身につけてしまっているので、今さら新しいやり方をやってみる気にはなれません。伊策の考えが認められないばかりか、しまいには、伊策のことを、そろばんきちがいと、かげでうわさするようになりました。

伊策も、学校で珠算を教えるときには、国で作った教科書を使わなければならなかったのです。教科書にのっている昔のやり方で教えなければなりません。しかし、伊策はくじけません。どう考えても、自分の研究した珠算の方法をやめることはできなかったのです。

そこで、伊策は、村の青年たちの勉強会で、自分の珠算の方法をためしてみようと思いました。